

江の島の地質は、主として以下のような層序（地層の順番）になっています。上ほど新しい時代です。

- (4) 人工埋立地／主として1960年代に造成
- (3) 関東ローム層（LO）と軽石層（P）／約9万年～6万年前
- (2) 三浦層群・三崎層（MI）／約1200万年～500万年前
- (1) 葉山層群・大山層（OY）／約1800万年～1600万年前

このうち「南東海食台・海食崖」「南西海食台・海食崖」「北海海食崖」などで最も普通に見られるのが、(1)の葉山層群・大山層の露頭（地層が露出している場所）です。大山層の岩石は、特に南西海食崖の「ふもと」にあたる、「稚児ヶ浦（ちごがうら）」周辺で、転石（露頭から剥離した転石）として容易に採取できます。(3)のローム層も、シーキャンドル（江の島灯台展望塔）の南西側の断層付近その他何か所かで、観察や採取が可能です。最も観察や採取が難しいのが(2)の三浦層群・三崎層です。

江の島の中でも、この三崎層が見られるのは、事実上聖天島の一か所です。「聖天島（しょうてんじま）」は、現在埋立地の一角の公園の隅にあり、島ではなく陸にあります。しかしかつては江の島とは独立した「島」でした。1923年の関東大震災で隆起して陸続きになり、その後埋め立て造成で、平坦地の中の一隆起になってしまったのです。

しかし、凝灰岩や砂岩の互層で形成された、ほぼ水平の地層は非常にわかりやすく、江の島唯一の三崎層の露頭という点で大変貴重な存在です。近年風化が激しく、崩落の危機にあるため、現在は周を柵に囲まれて、厳重に保存されています。稀に露頭から剥離した小さな転石が、柵（金網）の外に転がり落ちていることがあるので、粒状性をよく見て、三崎層のものと確認して採取しています。 （2025年3月中旬／神奈川県藤沢市江の島）

